

ノヤマ通信

vol.29 (2024.師走)



森のようちえんヒュッテ

【11月の活動記録：7日深山洞穴遺跡、11日桂川渓谷、14日山の基地、18日愛宕山公園、21日明石寺、28日宇和運動公園】

●活動を見つめるコラム

「錦秋を親子で楽しむ」

11月は紅葉シーズン。ヒュッテの活動でも紅葉が楽しめるような場所を選んで活動計画を立てました。



▲紅葉の様子 (①桂川渓谷、②、③明石寺、④宇和運動公園)

国の幼児教育・保育の指針に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の一つに「豊かな感性と表現」というものがあります。これは「心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。」というあり様です。

自然を見て心が動いた時に、子どもたちと色々おしゃべりしてみるといいですね。僕は「この葉っぱ、他ののとくらべて赤が濃くてきれいやない？ 🍁」とか「これよく見たら、オレンジの中にちょっと黄色も混ざってておもしろくない？ 🍂」とか、葉っぱを見せながら自分がどこに惹かれたのかをできるだけ具体的に言うようにしています。そうすると、「こっちの方が赤い！」とか「確かに黄色がある！虫が食べた穴もある！」という感じで話が弾むことが多いし、葉っぱをよく観察してくれます。子どもたちが葉っぱを「見て見て～」と持ってきたときにも、「いいもん見つけたね。そのどこがいいなと思ったの？」といった問いかけを繰り返すことで、気持ちを表現する練習になると思います。(ゆ)



▲11/14森のようちえんヒュッテ@山の基地

👤👤 山の基地

【11月の活動記録：5日、19日、21日、27日日常管理、4日、24日開放日】

●11/4の開放日に、崩れた石積みの修復を行いました。

以前、明浜町に暮らしていた友人の上原ゆうきくんが、高校生たちが農地の石積み修復技術を競う大会「石積み甲子園」の審査員として松山に来るというので、そのついでに西予まで足を運んでもらったのです。

崩れていた石積みを直すと、そこに人の営みを感じられ、風景に温もりが戻った感じがしました。これからも少しずつ、自分たちで石積みを手入れしていけたらと思います。

●11/24の開放日には、山の基地をいろんな生きものがすめる場所にする工夫の1つとして、鳥の巣箱づくりをしました。冬から春にかけて、シジュウカラやヤマガラなどの小鳥たちの憩いの場所になってくれるといいなあ 😊。



✿✿ その他の活動

●むぎの穂保育園の視察 (11/8)

自然体験を重視した教育（自然教育）をしているむぎの穂保育園（東温市）の視察に訪れました。ヒュッテメンバーのお母さんが、この園の園長先生と知り合いということで、見学に行きませんかと誘ってもらったのです。園長先生とお話をしたところ、教育観が私たちとかなり近いものがあるな、という印象を受けました。様々な植物を植えた園庭のつくりは、山の基地の環境整備の参考になるものが多かったです✨。

●下宇和地区文化祭で出展 (11/14)

地元の下宇和地区文化祭で、火打石を使って火をおこし、その火でクレープを焼いて食べるという遊びのコーナーを作りました。

火打石に使ったチャートという石は、私たちの地域では畑の石垣に使われたりしている、ごくありふれた石です。でも、身近にあるからと言って、その石の成り立ちや性質に目を向ける人は多くありません。子どもたちには、遊びを通じて身近な石に興味を持ってもらいたいと思います。



●わらぐろづくりに参加 (11/20)

西予市宇和町岩木地区で行われた恒例のわらぐろづくりに参加しました🌱。

昨年とは植えられていた稲の品種が違い、わらの長さが短く株も小さかったため、今までと作り方の勝手が違いました。もっと経験を積んでいきたいです。



●ツルの食物量調査 (11/20)

愛媛大学、日本野鳥の会愛媛、西予市役所と連携して、宇和盆地で越冬するツルに関する調査を行いました。今回の調査は、宇和盆地の田園地帯にどれくらいツルが食べるものがあるかを調べるもので、3年前から継続的に実施しています。

今年は大学生の参加が多く、効率的に調査を進めることができました。



●こどもの森づくりフォーラム in えひめに合わせ サイドイベントを実施 (11/30)

えひめ自然保育連盟の一員として、森林体験のイベントをえひめ森林公園で実施しました👏。

ゆすはら森のおさんぽ会と連携して、火打石を使った火おこし体験や、葉っぱや木を使ったスタンプ遊びのコーナーを提供しました。（火おこし体験では、どんぐり王国さんの無農薬小麦粉と平飼卵を使ってクレープを焼きました！）天候にも恵まれ、たくさんの方に自然や森にふれていただくことができました。

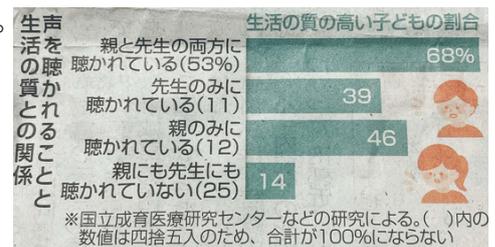


🐣 よもやま話

●12/3（木）の愛媛新聞に、『思いを聴かれた子「生活の質」高く-新型コロナ流行下調査-』という見出しの記事がありました。この調査では、コロナで様々な生活の変化があったことについて、保護者または先生が「考えを話せるように、質問したり確かめたりしてくれた」「考えや気持ちを伝えたとき、それを取り入れようとしてくれた」かどうかについて5段階評価で尋ね、両方の質問に「いつも」または「しばしば」と回答した子どもを「声を聴かれている」と定義しています。その結果、家庭や学校で自分の思いを聞かれている子どもほど、心身の健康状態や満足度を表す「生活の質」が高かったそうです。思いを聴くのは保護者と先生のどちらかでも生活の質の向上に効果はあったけど、両方がそろうとより効果的だったとのこと。

時間に追われていると話をちゃんと聴けない時もあるし、聴いたとしても、その意見をいつも取り入れられるとは限らないけれど、聴こうとする姿勢ややりとりの過程が大切なんだな～、でもこれ、子どもだけじゃなくて、大人も同じだな～（思いを聴き合える家庭、職場がいい！）と思ったのでした。

聴くことについては日々修行中です😊（ち）



<発行> 一般社団法人

ノヤマカンパニー



愛媛県西予市宇和町稲生237-1

noyama.company@gmail.com